

パブリックコメントの結果

- 第3次真庭市総合計画（案）

意見募集期間

令和6年12月16日（月）午後から令和7年1月10日（金）

パブリックコメントの結果

提出された意見 7人

意見の件数 30件

意見の概要については、次のページ

パブリックコメントのご意見と真庭市の考え方

番号	該当箇所	ご意見	真庭市の考え方
		第3次真庭市総合計画（案）について	
1	全体	<p>第3次真庭市総合計画（案）は、自治会が核となり、事業が推進されていくと思います。</p> <p>1. その自治会の50%が65歳以上の集落、いわゆる限界集落は、どのくらいあるのか把握されているのでしょうか</p> <p>2. 55歳以上が過半数の準限界集落は、どのくらいあるのか把握されているのでしょうか</p> <p>3. 限界集落は、自治会がすでに崩壊しているので、その対策は行ったでしょうか</p> <p>4. 限界集落で65歳から70歳前後のシニアが80歳代、90歳代の老人の世話、面倒を見なければいけない自治会に都市部から自分の子どもを返したいと思う親がどのくらいいるのでしょうか？</p> <p>5. 自治会の崩壊が、出生率低下を招き、確実に真庭市消滅に向かっていきます。</p>	<p>市内の多くの地域における高齢化の状況を踏まえた上で、真庭市では【自助、互助、共助、公助】の考え方のもと、高齢化が一定程度進んだとしても、市民が健康で元気に暮らすことができるよう市民一人ひとりが意識をし（自助）、必要に応じて地域内で助け合う（互助、共助）ことが大切だと考えております。</p> <p>引き続き、そういった地域づくりを目指した各種施策を推進し、セーフティーネットとしての公助に努めてまいります。</p>
2	第2章 基本構想	<p>P17 基本戦略8行目 「市民が地域内外で活躍し、人々の活動量が増加し自ら多様性を高めている姿を目指します。」の中の「活動量」が印象的なワードに思えますが、そのあとの基本計画等の中で、関連する（繋がる）箇所はありますか？</p>	<p>例えば、第3章基本計画の「支え合い いきいきと誰もが活躍できる真庭」の地域全体で子どもたちの豊かな育ちを支援することや市民一人ひとりが地域の活動に参加できる場づくりを進めることによって、活動量が増加し、好循環を生み出す力となることを意識しております。</p>
3	第1章 序論	<p>・P7-Society5.0 へ向かう姿勢には共感できます。電子情報ではなく、人それぞれの特徴に合わせた過ごしやすい社会づくりができるようになると良いと思います。しかし、Society5.0 はこの総合計画内ではほとんど説明がないのでどのような状態を指しているのかわかりづらいです。そのため、もう少し具体性のある内容も盛り込むべきと考えます。</p>	<p>市を取り巻く環境の変化として、今後に向けて意識しておくべき社会情勢の一つの一般的な記載であり、こうした要素も踏まえながら、総合計画として策定しているものです。</p>
	第1章 序論	<p>・P8-僕自身、移住して3年が経ちwell-beingを体感しています。この幸福な状態を作っているのは「選択肢がある状態」が大切なのではと思っています。真庭市内で公共の利益になることをやりたい、やってみたいと思っている人も多いと思います。もっとそういう方の声を拾えると良いですね。</p>	<p>民間事業者との連携推進や市民活動への支援などに対して地方財政措置の有効活用、DX推進等により、これまで以上に取り組みを推し進めてまいります。</p>
	第1章 序論	<p>・P12-財政の硬直化が進むことはよくわかりましたが、じゃあどうしていくかが「あらゆる手段で財源確保に努める」「歳出を減らす」くらいしか書いておらず、期待が持てません。</p>	<p>多くの施策が市民の生活の支えであり、活動を促進する目的であり、必要不可欠であることから、行政運営の効率化による歳出の削減と、国の補助金等を効果的に活用するほか、PPP・PFIなどの活用による民間資金導入の活用などの検討により、税収以外の確保にも努めてまいります。</p>
	第3章 基本計画	<p>P25-企業誘致は税収や雇用には効果的かもしれませんが、賃金水準が大きく変化するなど特に中小企業への影響が大きいです。雇用の面では市内企業でも人手が不足している現状を見れば、できるだけそちらに目を向けてもらえる仕組みづくりの方が大切ではないでしょうか。</p>	<p>人材不足を補うためにも多様な働き方のできる市内企業が增加することは重要であると考えており、引き続きそうした視点で個別の事業を検討してまいります。</p>

番号	該当箇所	ご意見	真庭市の考え方
3	第3章 基本計画	・ P27-「公園などの活用によるにぎわいの創出」というのは非常に雑な表現だと感じました。「公園をつくること」を目的にして公園をつくるのは違うと思っています。公園を作る目的を追加してほしいです。	にぎわいを創出する一つの場として、既存の公園などの十分な活用による地域のにぎわい創出が大切と考えており、新たな公園整備の必要性についても議論をしながら効果的な施策を推進してまいりたいと考えております。
	第3章 基本計画	・ P28-「関係人口創出により、地域ぐるみで移住者を支援」というのは言葉が変だと思いました。関係人口の創出は移住者の支援にはつながらないと思います。そもそも、「関係人口の創出」は目的にあたることかと思っておりますので、関係人口を増やすためにはどうしたらよいか下がりに記載の「ライフスタイルの提案による真庭の魅力の発信」といったことにあたるのでは?と思います。	表現を再検討させていただきたいと思っております。
	第3章 基本計画	・ P32-真庭市だけで解決が可能だとは思っていませんが、教職員の就労環境の改善は非常に大切だと思います。教職員が余裕を持って働けることで、より自由な発想での教育ができると思います。	同様の課題感をもっており、引き続き各種施策に努めてまいります。
	第3章 基本計画	・ P36-施策の方向性①の内容はすばらしいと思います。	ご意見ありがとうございます。
	第3章 基本計画	・ P37-施策の方向性④の4行目に誤字があります。「あらゆる」です。	ご指摘ありがとうございます。修正いたします。
	第3章 基本計画	・ P39-施策の方向性①の内容はとっても大切だと思います。ぜひ重視してほしいです。	ご意見ありがとうございます。
	全体	・ P13～P21くらいまでが今年やっていた「まちづくり会議」で市民の声を集めて作った部分だと思いますが、中身が薄くて該当ページの必要性を感じられませんでした。	基本構想は目指すところを表現しており、皆様からいただきました意見（要素）を反映させていただいております。
全体	・ 2040年になってほしい姿としては計画全体としては問題無いように感じました。ただし、市役所が主語での記載はほとんどないと思います。「風の時代」と呼ばれる現代では行政といえども変化を求められます。もう少し行政としての姿勢も欲しいように思います。	ご意見ありがとうございます。 行政として社会情勢や地域の実情に応じた変革は重要であり、本計画を基本とし、減少していく人口に対応した行政経営の意識を持つ人材育成により、質の高い成熟した行政運営に努めるとともに、健全な財政運営に向けて、民間事業者との連携も検討するなど、効率的なまちづくりを引き続き推進してまいります。	
4	全体	両備グループの社会課題解決（ https://ryobi.gr.jp/news/12805/ ）に応募した内容が、真庭市の総合計画に一部提案内容が重なるので私が両備に提案した内容を意見としてご参照ください。 私の簡易ホームページ（ http://blue-rose0012.com/ ）からPDF（314ページ）からダウンロードください。	ご意見ありがとうございます。

番号	該当箇所	ご意見	真庭市の考え方
5	第3章 基本計画	私の意見は5つあります。 1つ目は、人口減少に関する対策が、直接的な人口減少速度を低減する対策（子育て支援、移住定住の促進など）と。人口減少しても住民が影響を受けない様な対策（安全安心なまちづくり、地域福祉の推進、持続可能な地域産業の振興など）を分けて標記した方が分かり易いと思います。住民の立場では、人口減少により消滅自治体になっても、行政サービスが低下しなければ、そんなに問題はないと思います。極論すれば、自治体名が真庭市からノースオカヤマ市に変わっても良いのではないかと。	標記の仕方は様々な考え方があると思いますが、ご意見のとおり の趣旨で策定しているものです。
	第1章 序論	2つ目は、真庭ライフスタイルに関して、今回初めて知りましたが、このワードの定義を見ると真庭市民に関わらず、全ての日本人に共通する価値観に思えました。真庭と付けるのであれば、より真庭市の重点的・具体的なワードが欲しいと思います。例えば、地域医療・交通の維持、回る地域経済の推進、自然環境の保護・活用など。市民がイメージしやすい目標が必要ではないでしょうか。	第3次計画では、真庭ライフスタイルとは別に、基本計画の中で6つ推進の柱を掲げており、ご意見のイメージに相当するのではないかと考えております。
	全体	3つ目は、この第3次総合計画本体ではなく、第2次の総合計画の総括が分かりにくい事です。本計画は、基本構想の面が多いため数値的評価総括は馴染まず、難しいと思いますが、今までの基本計画の評価総括がなければ、新たな計画の策定の方向性が、不明確になると思います。ネガティブに言うと、5年が過ぎたから次の計画が必要になっただけと思うと、発展性がないと考えます。	本計画は、数値目標を設定するものではありませんが、これまでの第2次計画で取り組んできたことは振り返りつつ、今後重視する点を意識して計画を策定しております。第3次計画については、第2次計画を踏襲しつつ、若者・女性・多様性などに重点を置くとともに、今後取り組むべき具体的な課題についても記載させていただいているところですが、今後策定する総合戦略（実施計画）でも引き続き課題感をもって検討を進めます。
	全体	4つ目は、本基本計画策定の前段で、市民を対象に真庭市が主催した『ものがたり会議』が複数回開催されたが、行政機関が市民の幸福感を目標にする様な話の流れがありましたが、本来、市民各個人の幸福についての価値観は、各人全て異なるのではないかと考えます。よって行政機関の目標としては違和感を感じました。	ご意見のとおり、市民一人ひとりにとっての幸福感を感じられる地域づくりを市民や企業の皆さんとともに目指してまいりたいと考えているものです。
	第3章 基本計画	5つ目は、本パブリックコメントについて複数の知人と雑談した中ででた話で、私が強く感じたのは、23ページの自然減対策の中で、結婚し子育てできる真庭の実現の項目について、マジョリティ的な観点での表現としては理解できますが、結婚から子育てに進む流れのみ、標記する事に違和感を感じるという指摘です。マイノリティの視点も合わせて、標記する方が良いのではと思いました。 以上色々述べましたが、日頃この様な事について、考えた事はありませんでしたが、初めてパブリックコメントを作成する為、新しい視点で考える事ができました。ありがとうございました。より良い真庭市になりますように、行政機関として活躍を期待します。	大切な視点でありご意見のとおりと考えておりますが、その上で、本項では、結婚したい、子どもを産み・育てたいといった希望の実現を支援するといった観点での、自然減対策を特筆しているものとご理解いただくと幸いです。
6	第1章 序論	P6 少子高齢化と急激な人口減少の進行 東京一極集中とその弊害や国家財政について、触れたらどうでしょう。	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

番号	該当箇所	ご意見	真庭市の考え方
6	第1章 序論	<p>P7 「Society5.0」という表現自体が早々に陳腐化して、あまり使われていないのではないかと。かつ、総合計画案のSociety5.0の記述にも、さほどの熱い思いが感じられない。Society5.0について書いたら、「サイバー空間を活用して…」と書かれているが、生成AIやロボティクス、自動運転などについて、触れられていないのは、なぜでしょう。労働人口の減少にはロボティクス、過疎地の交通弱者には自動運転等の技術が貢献するのではないのでしょうか。あまり夢を感じられないSociety5.0になってますよ。</p> <p>シカやイノシシが捕れる狩猟社会を含んだ自然豊かな真庭（しかも農耕も工業も情報もある）、田舎の部分を前向きに評価し「里山資本主義」を標榜する真庭市は、全部足し算をしてSociety（1.0+2.0+3.0+4.0+5.0）= Society15.0を打ち出した方がインパクトあるのではないのでしょうか。むしろ、真庭市独自の概念は、P10以降の「2040年に向けた真庭市の姿」の項で触れるべきですが。</p>	<p>市を取り巻く環境の変化として、今後に向けて意識しておくべき社会情勢の一つの一般的な記載であり、こうした要素も踏まえながら、総合計画として策定しているものです。</p>
	第1章 序論	<p>P9 SDGs先進地の真庭の総合計画にしては、記述されている内容が表面的ではないのでしょうか。「誰一人取り残さない持続可能な未来へ」とのSDGsの根本理念に能動的に取り組み、日本を引っ張っていく気概を感じさせて欲しい。</p> <p>真庭独自の重点施策との関係では、気候危機や資源の枯渇、脱炭素等について、触れても良いのではないのでしょうか。</p>	<p>真庭市は早くより木質バイオマスに取り組み、脱炭素先行地域にも選定されております。記載について、検討させていただきます。</p>
	第1章 序論	<p>P10 人口については、「社会減」と「社会増」それぞれについて、分析、目標設定が必要ではないのでしょうか。「社会減」については、高校卒業後の若者の動向についての分析が欲しい。「社会増」については、「真庭ライフスタイルの進化」の成果をデータで裏付けができないものか。肌感覚としては、ここ最近、UIターンが増えている実感があるのは気のせいでしょうか？</p>	<p>分析を行った上での総合計画における記載内容としておりますが、今後策定する総合戦略（実施計画）の策定にあたっては、ご意見を参考にさせていただきたいと思っております。</p>
	第1章 序論	<p>P13～P14 真庭ライフスタイルの説明が抽象的過ぎて、地名を変えれば、どこの地域にも当てはまるし、無味無臭で、印象に残らない。もう少し解像度を上げて具体的にイメージしやすくして欲しい。第二次総合計画で「真庭ライフスタイル」を提起して以降、市内ではますます多様な真庭ライフスタイルが開花しているのではないのでしょうか。P14の「成長サイクル」の図は、第二次総合計画の中にも記されているわけで、実際、このようなサイクルで、真庭ライフスタイルは進化していったと思う。一例挙げると、様々な大学の先生や学生が真庭に関わり、市民と交流、協働する機会が増えているのではないのでしょうか。それが真庭ライフスタイルの新たな価値の創出に繋がっていると思う。なので、その辺を中間総括的に真庭市民で共有する意味でも、どのように真庭ライフスタイルが進化してきているか具体的に記述できるのではないかと。</p> <p>また、綺麗事だけではなく、逆に、未だにコミュニティ（家族を含む）の中に、負の遺産、ソフト面の里山負債（ローカルコミュニティに残る悪しき習慣、ジェンダー差別他）のようなもの残っている。その解消、里山資本（資産）への改善を進めていくとの課題認識も必要ではないのでしょうか。それは『互いを尊重した暮らし方』という表現に含まれているのかも知れませんが、表現が抽象的で、問題点が伝わらないので、もう少し、具体的に書いたほうが良いと思います。この項は、そういうことも踏まえて、第二次総合計画のコピペではなく、力を入れて記述して頂いて、納得感と共感を感じたい。</p>	<p>本項は基本的な考え方をまとめているものであり、ご意見のとおり、真庭ライフスタイルを掲げて取り組んできたこの間の一定の成果を踏まえ、第3次計画においても、真庭ライフスタイルの実現を目指すべき姿として大切に、踏襲することとし、そうした意味で、敢えて第2次計画の表現をそのまま生かしているものです。その上で、社会情勢等も勘案しながら、ご意見をいただいたような様々な課題も踏まえながら、基本構想、基本計画を立案しているものとご理解いただくと幸いです。</p>
	第3章 基本計画	<p>P25 『選ばれる地域づくりの推進の現状と課題』で、「若者が転出しても、また戻りたくなるまちにする必要がある」との市民の意見が紹介されているが、「戻りたくなるまち」とは、どういうまちなのでしょう。それは、良い思い出のあるまちであり、個人が社会関係資本の蓄積を感じられるまちであり、里山負債を含む社会関係負債が少ないまちではないのでしょうか。</p> <p>『施策の方向性』として、ハード面のみならず、コミュニティの負の部分改善、コミュニティ価値を向上させるソフトな施策が必要だと思っております。また、「選ばれる地域づくり」がある程度、市民活動としても出来ている所もあると思うので、そういう部分は積極的に評価しても良いかなと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。引き続き施策等の参考にさせていただきます。</p>

番号	該当箇所	ご意見	真庭市の考え方
6	第3章 基本計画	<p>P35『支え合い いきいきと誰もが活躍できる真庭』 「地域コミュニティの維持と強化」、「地域のつながりを深めること」との表現は、若干の違和感を感じます。2040年に向けて、無理に維持・強化する必要のないコミュニティもあると思います。必要なことは、各地域コミュニティで「15年後の地域の姿」について議論し、それに向けて、どう地域コミュニティを進化(維持、リストラを含む)させていくかではないでしょうか。その為の大事な視点として①コミュニティの心理的安全性の向上②己の特性・常識・価値観を理解し、お互いの特性・常識・価値観を許容する地域社会③個人とコミュニティの対話力の向上という課題を提起したい。</p> <p>以上、締め切りに追われて、ちくはぐで理解不能な部分もあるかも知れません。案について、理解が浅く、的外れな意見だったらすみません。でも、貴重な機会をありがとうございました。</p>	課題意識は同様だと考えており、今後の施策等の参考にさせていただきたいと思います。
7	<p>全体</p> <p>第3章 基本計画</p> <p>第3章 基本計画</p>	<p>第3次総合計画（案）全体を通して感じたのは、真庭市が直面する課題、特に人口減少に対する危機感と、それに対する具体的な解決策を模索しようとする強い意志です。第2次総合計画と同様に「真庭ライフスタイル」というコンセプトを打ち出し、市民一人ひとりの生活に焦点を当て、SDGsを意識した地位の持続性やデジタル化社会への対応、Well-beingの重視に対するコミットメントについても強く共感いたしました。</p> <p>■(株)まちと学びのイノベーション研究所からの提案</p> <p>①教育・人材育成と地域イノベーションの推進 地域社会の持続可能性を支える上で、教育と人材育成は非常に重要だと考えています。「安心とつながりの中でひとが育つまちづくり」という推進の柱に着目し、地域全体で教育を支える組織・仕組みづくりを提案します。2022年から2024年まで3か年の岡山県立勝山高校の生徒を対象に、官民連携の学びの場「鼓山塾」を実施いたしました。その経験から地域の視点に立った、地域に根差した人材教育及びその充実の必要性を強く感じました。小・中・高校を通じた真庭の地域特性、資源を生かした学習機会の創出、地域の教育にイノベーションを起こしていくような学びの組織・仕組みづくりについて計画に盛り込むことはできないでしょうか。大学、企業、NPOなどと連携し、受験のための学びでなく、自分の判断で行動できる実践的な学びの場を提案させていただきます。このことが、若者が魅力を感じるまちづくり、コミュニティの形成にもつながると考えます。</p> <p>具体的には、「コミュニティ・ラーニングセンター（多世代交流や学び合いを促進する場）の設置、地域の多様な主体が連携し、学びの機会や交流の場を提供することで、地域コミュニティの活性化を計画します。同時に、地域DX推進ラボを設置し、オープンデータプラットフォームによって、行政データを公開し、市民や企業が活用できるようなプラットフォームを提案します。これにより、市民目線での地域課題の発見や解決、新たなサービス開発を促進します。</p> <p>②女性健康支援、就業支援講座の開催 ①の学びの関連ですが、真庭市では、女性が働きやすい環境づくりが十分ではないように感じられます。特に子育て世代の女性が就業をあきらめざるを得ない状況も考えられます。また、女性の健康課題（月経、妊娠、更年期など）に対する理解が十分ではないため、就業や地域活動における支障が生じている可能性があります。女性特有の健康課題に関する知識を普及するためのセミナーや研修を企業や地域向けに実施することを提案します。女性が安心して働けるよう、柔軟な働き方（テレワーク、時短勤務など）を推進し、オンライン健康相談窓口の設置や、地域コミュニティでの情報交換・相互サポートの機会提供を検討してください。※障がい者に対しても様々な困りごとのオンラインサポートも検討をお願いします。</p>	<p>①②まとめて ご提案内容については、大切な視点だと考えており、第3次計画においても意識をしているもので、今後、総合計画を基に実施していく施策等の参考にさせていただきます。</p>